

急激な腫瘍増大による身体的症状緩和と
患者，家族を含めた精神的緩和に苦慮した
下咽頭癌，頸部転移の1例

広島市立広島市民病院緩和ケアチーム
外科部長 塩崎 滋弘

2008.08.21 K-NET第7回医療者研修会 緩和ケアの実際

50代男性

下咽頭癌，頸部転移

現病歴

平成X年12月 右頸部腫瘤を自覚.

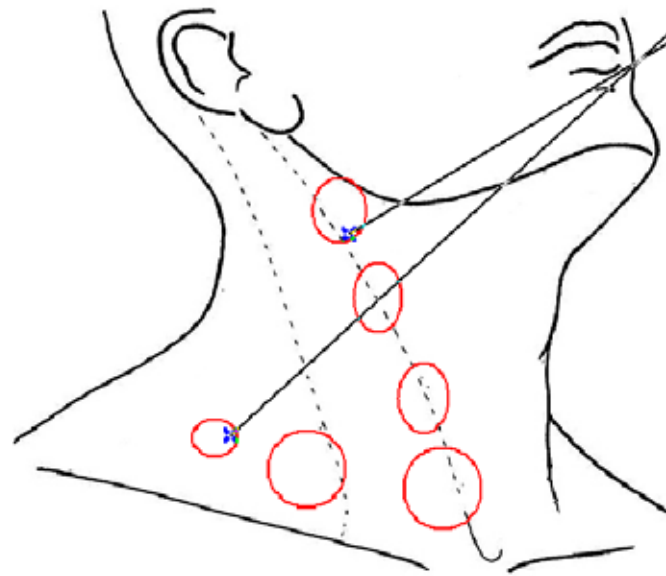
平成 (X+1) 年1～2月にかけて腫瘤増大するも症状なく放置。2月末より疼痛出現。他院受診し生検で下咽頭癌と診断され3月中旬当院紹介。

入院時現象

頸部右側を中心に手拳大の腫瘤，強い疼痛あり。
経口摂取困難。

入院時所見

頸部所見



僧帽筋の外側まで腫大

jugularに沿って累々とリンパ節

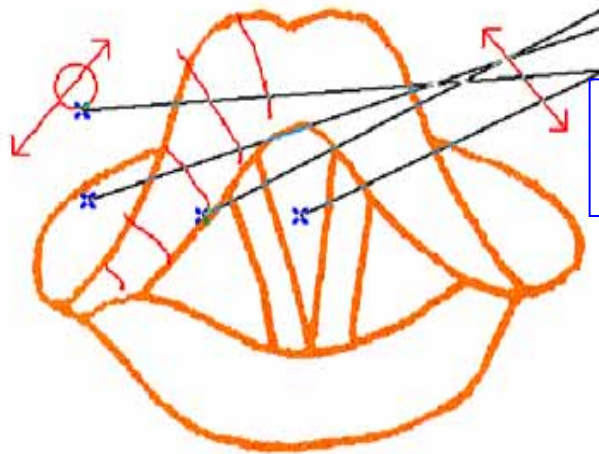
径4cm

径2cm

喉頭所見

腫脹

気道. 声帯運動は保たれる



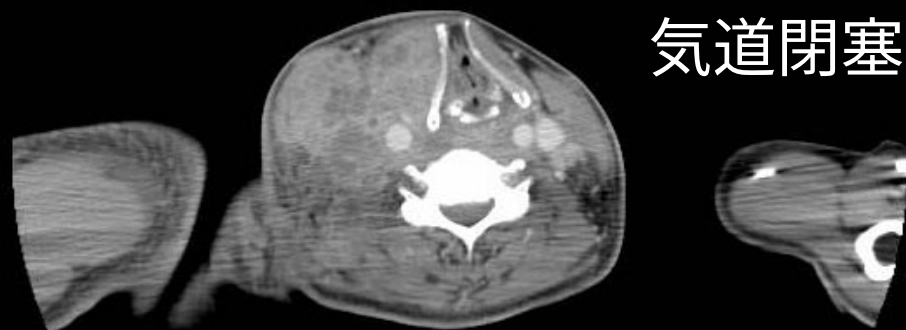
他院受診時

CT

当院入院時 (1ヵ月後)



急激な増大



気道閉塞



入院後経過

入院後

経過

当日 オキシコンチン10mg開始

5日目 気道狭窄にて気管切開

7日目 経口摂取困難のためデュロテップパッチ
(DP) 2.5mgに切り替え

15日目 緩和ケアチームコンサルテーション
疼痛に対しDP 5mg, フェイススケール 3以上

問題点 (1)

身体的

- 腫瘍による激しい疼痛.
- 気管圧排による呼吸困難.
- 経口摂取困難.
- 頑固な便秘.

精神的

- 急激な症状やbody imageの変化を受け入れられない.
- 気管切開にて声を喪失しコミュニケーションが取れない苛立ち.
- 治療の結果が出ない怒り.
- 医療者に対する不信感 (治療方針の変化) .
- 不眠.

問題点 (2)

家族 (妻, 娘2人) の問題

- ・ 夫あるいは父の病状やその急激な変化を受け入れられない.
- ・ 告知に対する家族の意見の食い違い
告知に積極的 兄, 長女.
告知に消極的 (反対) 妻, 次女

病棟スタッフのストレス

緩和ケアチームの対応

- 疼痛に対する治療について
- 精神的支援について
- 緩和ケアチームの看護師から